



昭和十三年十月二十一日

時局特報

(第四十一號)

子

吉田
梅本

極秘

臺灣總督官房外務部

主要資料名略號

	Canton Daily Sun. D.	C. D. S.
	China Weekly Review. W.	C. W. R.
	North China Daily News. D.	N. C. D. N.
	South China Morning Post. D.	S. C. M. P.
支 那	新 聞 報、 日、	新聞報
	申 報、 日、	申 報
	廣東七十二行商報、 日、	廣 商 報
	廣 州 共 和 報、 日、	廣 和 報
	Manila Daily Bulletin. D.	M. D. B.
比 律 賓	Philippine Herald. D.	P. H.
	Tribune. D.	T.
	Opinion. D.	O.
印 度 支 那	Courrier d'Haiphong. D.	C. d. H.
暹 羅	Bangkok Times. D.	B. T.
	Siam Chronicle. D.	S. C.
馬 來	Singapore Free Press. D.	S. F. P.
	Straits Times. D.	S. T.
蘭 領 印 度	Bataviasch Nieuwsblad. D.	B. N.
	Soerabaiasch Handelsblad. D.	S. H.
其 他	Asie France (Paris) M.	A. F.
	Economist (London) W.	E.
	France-Outre-Mer (Paris).....	F. O. M.
	London Times. W.	L. T.
	New York Times. D.	N. Y. T.
	Nieuw Rotterdamse Courant. D.	N. R. C.
	Statist. (London) W.	S.
	(備 考) D.- Daily, W.- Weekly	
	日.- 日 刊	

支 那 一

一、三壠島に於ける飛行場

二、日本の小規模海軍根據地

三、澳門繁榮の復活

四、日本商人は北支の外國營業を排斥

五、上海の金融實業界は政府の西南開發に協力せん

六、支那政府は銅鐵鋼の出港を嚴禁

七、國民政府の在外正貨廿二億元以上に達す

八、米國郵務部は日本に對し報復手段を探らん

九、厦門の偽政權は瓦解の兆あり

比 律 賓 一七

一、日・支事變の問答九題

臺灣總督官房外事課

暹 羅 二三

一、支那人教師免職は虛報

二、排日華僑取締に因み阿片窟手入れ

三、茶商襲撃計畫中の秘密結社員逮捕

馬 來 二七

一、獻納飛行艇の命名

二、マンチエスター聯隊來星

三、蘭領印度の石油將來

タイプライター用紙

支那

(含華僑)

一、三龜島に於ける飛行場

(石岐九月十三日發、インタナショナル) 中山縣沖、三龜島に於ける最新式飛行場は日本海軍陸戦隊の手により一千名以上の朝鮮人及臺灣人を使役して目下工事進行中である。

晝食交代で労働し植民地住民は地下格納庫及高射砲臺の建設を急いでゐる。滑走臺の大きさは重爆撃機若し陸戦隊に充分である。漁師達までも竣工を急ぐため強制的に徴用されて居る。労働者群が過激な勞役と不十分な給與を厭ひ對岸本土に泳ぎ着くことにより逃亡するを防ぐため武装水兵により厳重監視せられて居る。飛行場の竣工の曉は七十機を收容する。この空軍根據地が航空母艦に代り航空母艦は他の方面へ移動するであらう。

臺灣總督官房外事課

(一九一四 I O D S)

二、日本の小規模海軍根據地

(インタナショナル) 南支那に於て日本の小規模海軍根據地が四ヶ所、印度支那、比律賓、蘭領東印度及馬來に對し構築せられつつある。この四根據地は汕頭の北に在る南澳島、澳門の南西に當る三龜島、香港の南西に在る萬山列島及北海の南に當る瀾州島である。

三龜島及萬山列島に於ける海軍根據地は既に竣工したと報告されて居る。夫々地下格納庫及賣き滑走臺が設備され高射砲が据附けられ、約五十臺乃至六十臺の戦闘機を收容する能力を有する。

南澳島を航空港に改造することは短時日になされることが出来る。蓋し同地の鹽田は堅く且つ平坦であり、大したる構築工

ワイプライター用紙

事を施さずとも滑走路となるであらうからである。地下格納庫の建設は朝鮮人及臺灣人労働者を強制徴発しても二、三ヶ月を要するであらう。

東京灣の北海の南方約二十哩に當る瀘州島に日本が小海軍根據地及び飛行場を建設することに對し佛蘭西當局は關心を有してゐると言はれる。かかる根據地は印度支那及佛蘭西の租借地廣州灣に對し脅威となるであらう。瀘州島の航空港は廣西、雲南及貴州の爆撃を便利ならしめる。これら各省が長期抗戰の地盤となることは日本の既に看破せるところである。龍州、梧州桂林其他廣西に於ける重要都市は週末中猛爆撃を受けた。瀘州島は寡少の民兵の策略により豫期以上に守備し得た。民兵は島内各地點に聯隊旗及大隊旗を樹て、日本の偵察機をして島嶼が義勇軍により由々しく防衛されたるものと誤信せしめた。しかし事實は民兵は約二百名であつた。

臺灣總督官房外事課

瀘州島の占領により日本海軍は豊富なる泉及井戸の清水を得ることとなり勇氣づけられた。蓋し南支策戰に従軍する日本軍艦は水の缺乏により不利なる地位に置かれ屢々航行中の洩克船より力づくで水を徴發せねばならなかつたものである。

(一九・二一・一〇・D・S)

三、澳門繁榮の復活

近年澳門貿易復活のために熱心なる努力が試みられた。昨年事變の勃發と共に一層拍車をかけられた。香港が廣東を通じて支那奥地への物資供給の源泉である如く澳門は石岐を通じて支那奥地への物資供給の門戸に當る。香港に近接する海上が日本軍により封鎖せられたるため澳門は西江廻航の迅速且つ安全な水運の便益を提供した。昨年下半年統計に依れば澳門寄港の船舶噸數は前半年の二倍以上であつた。澳門の漁撈業はまた復活

した。戦争發生以前、廣東及支那奥地は汕頭、廈門及廣州灣の漁業に依存してゐた。今や統計の示すところに據れば澳門は香港と匹敵し支那の乾鮮海産物の尅大なる需要に對する供給に於て殆んど第一位を占めんとしてゐる。

構寸製造工業も亦支那事變により刺戟された。支那に於ける主要構寸製造工業中心地は日本軍により占領された。澳門の人口はまた香港と同じく支那避難民の殺到により膨脹した。控へ目に見積り少くとも二萬人はこの十一平方哩の地域に群集した。この避難民の殺到はコレラ其他の傳染病を發生せしめたが香港に於けると同様に澳門に貿易の利益を齎し、主として北方よりの富裕支那人より成り、氣晴しを追求する避難民による人口の増加は阿片專賣及賭博に好景氣を招來した。澳門は南部廣東省の中山縣沿岸地方に近接せるため、澳門は實際の戦闘にも香港よりも近接せる位置に置かれた。日本海軍の軍事行動はその兵

臺灣總督官房外事課

站基地として占領せる澳門附近の數多の小島嶼より行はれた。澳門の漁師が三哩の港域の丁度外側を巡邏中の日本驅逐艦若くはトロール船の一、二隻を見ることは珍しいことではない。日本飛行機が空襲に向ふため奥地に着進するのも澳門で頻繁に認められた。唯最近に於て地方當局は日本機が植民地上空を飛翔することに對し正式の抗議を提出した。けれども葡萄牙植民地はその舊き盟邦、英國の植民地香港と同じく冷靜であり、戦争が齎した經濟好況に満足してゐる。凡ゆる方面に於て極東の擾亂は東洋に於けるモンテ・カルロに對し財寶を齎しつつある。

(一九二二一〇D S)

四、日本商人は北支の外國營業を排斥

支那京津地方の日本商人が、英米兩國の同地方面に於ける石油營業を排斥しつつあつたことは、既に幾度か外國通信社に依

に依つて報道された通りではあるが、是等報道は何故か何れも左して詳細ではない。記者は此の度天津某油商の説明に依つて始めて此の種日本側陰謀の全貌を知ることが出来たのである。即ち北支方面は日支戦争が勃發して以來、石油の供給が愈々不足勝ちとなり、従つて其の市況は可なり活潑の光景を呈するに至つた。而して日本側の石油商例へば武蔵洋行等の如きは之を絶好の機會と認め、相率めて其の取扱石油を北支各地に投資りしつたのである。然るところ、其の石油は元來品質が良くなかつたから、支那側の需要筋は仲々之を買はうとしない。依然英米石油を愛用してゐる。其の後所謂北支聯合準備銀行が出来て、類りに不換紙幣を濫發してゐたが、件のスタンダード及エーシア等は右聯合銀行の紙幣流通を妨害したところから、遂に一ヶ月以上も營業停止を餘儀なくされるに至つた。於是乎前記日本側石油商はぐつと勢力を扶植し、所謂北支石油統制會

臺灣總督官房外事課

社なるものを設立した。而して此の種統制會社には、英米石油商も加入はしてゐるが、其の投資額は極めて微々たるに過ぎない。之は日本石油商が近き將來に於て、北支石油市場を獨占するに至るであらうに反し、英米石油商は愈々枕を並べて退却するか、没落するに違ひないことを意味してゐる。斯くの如く、日本石油商は北支偽政權の庇護に依つて、英米石油商を驅逐しつたあるが、獨り石油に限らず其の他の英米商品も、追々日本軍閥に依つて既得市場を蹂躪されるに至るであらう。日本側は口癖に「第三國の在支權益を侵害しない」とか、「第三國の支那各地に於ける事業を妨害しない」とか爲してゐるも、結局は以上の事實に依つて、骨形もなく潰されてあますところがなからう。故に、最近英米外國商筋では、各本國政府が日支戦争に對し、拱手傍觀の態度を持しつたのは洵に遺憾の至であるとするやうであると。(一九一五—譯報)

五、上海の金融實業界は政府の西南開發に協力せん
 支那政府は、西南諸省の富源を開發せむが爲めに、曩に所謂西南經濟建設委員會を設立して以來、既に相當巨額の開發資金を工面し得たと傳へられるが、政府當局としては先づ第一歩に鐵道を敷設し、依て以て既成公路網との運輸連絡を圖らむとしてゐる。而して斯く鐵道線路の完成を俟つて、一面には礦物資源の採掘に努め、他面には各種重工業の工場を設立せむとしてゐる。右政府の計畫は取りも直さず、支那の工業中心地帯を西南に移すべく、意圖した結果である。上海方面の金融、實業界首領は過般會で西南實業考察團を組織し、實地視察の爲めに南下せしめるところがあつたが、彼等一行は既に諸般の調査を遂行し、先日上海へ歸還して來た。聞くところに據れば、同考察團としては政府の西南開發計畫に對し、全面的に協力すべく決意し、目下各専門家に於て其の視察結果の検討並に具體的計

臺灣總督官房外事課

畫の立案を急ぎつつあるが、近く團員全部の審議決定を俟つて愈々正式に政府當局に對し、建議する趣である。尙ほ彼等としては、西南諸省を開發せむとすれば、勢ひ先づ交通線路の建設例へば鐵道の敷設を眞先にやらねばならぬことを、一致見解してゐる。蓋し既成公路は比較的輕便ではあるも、貨物の大量輸送には兎角間に合はないし、又水運とても從來の河川流域に限られ、事實上今日此の頃の要求に應ずることが出來ない。尙又航空運輸に至つては、運賃は概して高過ぎるのみならず、輸送能力にも限度があつて、仲々思ふ存分に利用し兼ねる。事情此の通りであるから、最も速に鐵道を敷設し之に依つて重要工場の機器運搬を期せねばならぬ。即ち西南交通網の完成は最も緊要な前提要件であると、又聞くところでは、上海の美亞、五州及天原三工場は既に之が先發隊として香港の對岸九龍に工場を移轉すべく、準備中であると云ふ。(一九・一七一文瀾報)

六、支那政府は銅鐵鋼の出港を嚴禁

支那中央政府は銅、鐵及銅等は各種軍器の重要な製造原料であるのに鑑み、既に各省市縣政府に對し夫々之が出港を嚴禁する旨命令するところがあつた。而して最近浙江省政府は故銅及廢鐵の買收方法を定め、西南各省は獻鐵運動を始めたが、右は此の種禁令の反響とも觀られてゐる。

中央政府の銅鐵鋼禁運、中央政府は屢に各省、市、縣政府及各地海關に對し、銅鐵鋼の出港を嚴禁するやう命令するところがあつた。従つて關係當局は、今後之を嚴重査察することとなつてゐるが、若し右の事實を發覺されると、現品は沒收され、身柄は軍法に照して處罰されることになる。

西南各省の獻鐵運動、西南各省は目下獻鐵運動について、獻鐵運動を創めつつあるが、之は鄉鎮を單位とし、農民の故農具並に不用の鐵製日用品を蒐集し、縣、市、省政府を通じて之

臺灣總督官房外事課

を中央軍事當局に獻納せむとするものである。而して今日迄のところでは、地方農民の獻鐵態度は極めて眞剣であり、又關係當局も種々將勸方法を講じつつある。

浙江省政府の故銅廢鐵買收、浙江省政府は今般、故銅廢鐵買收方法を定めて愈々之が買收に乘出してゐるが、右に依れば管下の縣政府が直接之が買收の衝に當り、而も當分の間には鐵質佳良のもの又は鑄鑄可能のものに限つて之を買收することになつてゐると。

(一九・一五—文瀾報)

七、國民政府の在外正貨廿二億元以上に達す

最近國民政府財政當局の報告に據れば、國民政府の歐米諸國に寄託しある所謂在外正貨(白銀)は、本年最近の某月迄には依然廿二億元以上に達してゐるが、之は即ち日支戰爭が勃發してから已に一ヶ年有餘を經過したるも、支那の在外正貨は少し

も減少しなかつたことを意味するのである。又國內で發行した二十億元の法幣も其の準備現銀は法定額の六割以上にも達してゐる。斯くの如く、國民政府では獨り軍事上の増強が出来たるのみならず、經濟上でも相當其の基礎を鞏固にすることが出来た譯である。而して現在の事情から推せば、國民政府としては今後少なくなるとも、三年乃至五年の軍事費を難なく支辨することが出来よう。更に若し、支那國民が舉つて經濟上の力量を以て、隨時不斷に支那政府に貢獻するところがあれば、假令日支交戦が今後十年續いても、二十年かかつて、之は殆んど問題にならない。於是乎支那國民としては目今各個人に於て益々勤儉の美風を養ひ有用な金錢を無用な方面に投げ棄てないやうにしなければならぬ云々と。

(一九・一四一譯報)

八、米國郵務部は日本に對し報復手段を採らん

臺灣總督官房外事課

最近當市在住の外人側より出でたる消息に按れば、米國郵務部は日本出先軍憲が同國の上海行郵便物に對し、抑留検査を施しつつあるを遺憾とし、近く之が報復手段を採らむとする意向であるが、之は即ち日本より米國へ向けて送送するところの、宣傳用パンフレット類及其の他の郵便物の送送を停止せむとする目論見であると、某外人は更に言葉を續けて曰く、「日本郵船は頃來沙市又は桑港へ寄港する都度、きまつて宣傳用パンフレット及英字新聞の特輯號を山の如く荷卸しつつあつたが、之は大部分各地新聞の主筆、商業會議所の議員國會議員及其の他の個人に寄贈するものである」と、又聞くとこゝに據れば、華府當局では將に係官を上海へ派遣駐在せしめ、依て以て往時の外國郵便制度を復活せしめむとする趣であるが、尤も此の種外國郵便制度は、一九二一―二二年の華府會議當時に於て、支那側の郵政主權が確立するや之と同時に、已に取消されたものであるから

今更今日に於て再び之が復活を策動しても、支那側の關する限りは到底賛同が出来ず、勢ひ國民會議の承認を求めなければならぬと信ぜられると。

(一九・一五―文匯報)

九、厦門の偽政權は瓦解の兆あり

(廣東通信)―當地某機關は、八月三十一日福建省側より、左記電報に接した趣である。

(一)厦門に於ける敵軍の現有兵力は、實に衰弱そのものである。最近十日來、某地方に駐屯の我が軍は、屢々夜陰に乗じて敵軍を反攻するところがあつた。即ち、我が軍は竹筏で渡海し、高崎より上陸して敵軍を襲撃し、之に甚大な損害を與へた。偽政權の職員は、之が爲めと給料の不渡りも手傳つて、愈々瓦解の兆が看取される。

(二)厦門郵政局は、最近敵軍の強要に依つて、日系郵務生を二名

臺灣總督官房外事課

入れることとなつてゐるが、之は郵便物の検査を擔當するやうである。從來の支那人郵務生は、月給三十元見當を支給されてゐたが、日系郵務生には月給七十元を支給せむとしてゐる。又最近郵政局内の職員は男女老幼を問はず、日本文並に日本語の學習を強要されてゐる。故に局長以下職員は、孰れも不平滿々ではあるが、現下の環境では制止むを得ないこととしてゐるやうである。

(一九・九―新聞日報)

比律賓

一、日・支事變の問答九題

比島労働運動家として政府並勞資間に相當の信用を博し居るホセーバルヨット主宰の土語紙「スルー」は九月十八日付紙上で「日・支事變の問答」と題して二十題の質問に對して夫々解答を與へて居る。

其の注目すべきものを略述すれば次の如し。

問「日・支兩國は何故今日戰を繼續して居るや」

答「支那側は日本軍を當地より撤退さし、出來得れば滿洲國を支那統治下に置かんが爲に戰を繼續して居るのである。之れに對して日本側は支那に於ける己れの正當なる權利を擁護し又日・支間の友誼關係を永久に維持せんがために支那に反省を促すべく戰を繼續して居るのである」。

臺灣總督官房外事課

問「何れが戦端を切りしや」

答「支那である。即ち北京附近で演習をして居た日本守備隊を支那軍が攻撃したことに依つて戰が始まつたのである。斯くて日本の隱忍にも拘はらず此事變の幕が切つて落されたのである」。

問「日本は支那に於いて軍隊を配備する權利ありや」

答「北京―天津間に軍隊を配備する日本の權利は今日、英、米、佛、伊が持つて居ると同様に明きらかに承認されて居る。今日支那は外國人の生命、財産が保護されるに安全なる土地ではない。其れ故列強は支那の承認を得て軍隊の配置をなしたのである」。

過去に於ける匪賊や盜賊の出現が我々をして此處に回想せしめる。

問「日本の目的が果して侵略なりや」

答「支那政府が北部地方に五十万人の兵を動員し、上海地方には二十万人の兵を集中し日本を脅やかしたる結果日本は自國民の生命、財産の擁護の爲め、軍隊を此の地に派遣したに過ぎないのであつて、絶対に彼の行動は侵略を意味して居るのではない」。

問「日本は支那との妥協を望んで居るか」。

答「日本は支那の誤れる觀念し日本は支那の敵でありしが根絶することを望んで居る」。

問「支那に於ける共產主義は果して勢力ありや」。

答「南京政府は支那共產軍と密接なる關係を結んだ。且つ共產軍は現在の所中央軍と協力して居る。今日支那政府の四割乃至五割の権力は共產軍の掌中にある。日本は此のロシヤ化した支那は國民の幸福の脅威となるものであり、共產主義の理論は支那國民には調和しないものであると強調し

臺灣總督官房外事課

て居る」。

問「共產主義は支那に取つて有難いものであるか」。

答「今日支那は強國としての支那國家の再建設のため國內統一を目的として其の資源を開發せんとする過程にあるのである。然るに四億の民の九割は悲惨なる境遇にあり、獨り共產主義のみは蔓延を期し、このままの狀態を以つてすれば支那は恐らく麻の如く亂れ國內は支離滅裂するであらう」。

問「日・支事變は一大支那市場を失けう結果とはならないか」。

答「日本は今次の事變が日・支貿易關係に妨害を與へるものであり、事變が終局に達した後の貿易關係も恐らく芳しくはないであらうことは良く承知して居る。之れは日本が利益せんがための戦ではないことを良く物語つて居るものである」。

日本は將來に於いて良い結果を齎らず様日本人の爲のみな

タイプライター用紙

らず支那人の爲めに戦つて居るのである」。

問「日本は戦を繼續して行くためには財政が許すか」。

答「嘗つての大震災（一九二三年）の結果日本は非常なる打撃を蒙つたが此の復活費のため百億圓の費用を要したが何んの困難もそこには伴はず易々としてなすことが出来た」。現在の日本の國税は非常に低率で、外國より借款をする必要はなく、軍需品は良く供給されて居り、金の生産高は年を追ふ毎に増加して居る状態にある。其れ故富める國、日本には今次の戦時費が二十六億圓であらうとも左程日本國民には重荷とは考へられない」。

（八・二一―スルー紙）

臺灣總督官房外事課

一、支那人教師免職は虚報

九月十八日の同盟通信は暹羅の官立學校に奉職する全支那人教師は反日鼓吹の廉を以つて免職された旨を報じてゐるが、之に對し暹羅文部大臣秘書官は次の如く語つた。

此の報道も例のクラ運河問題と同一性質のデマである。右の同盟通信は恐らく最近發表の暹羅地方商業學校閉鎖に關する事實を取違へたものであらうと推察される。即ち最近地方商業學校三十校が閉鎖されることに決したのであるが、殘餘の學校は依然繼續さるるものであつて、右閉鎖校の支那人語學教師は十六名、殆んど支那人名の人であるが、大多數は暹羅生れで、うち五名は地方官吏である。殘りの十一名中五名が職を離れたもので、他の一名は商業に従事する爲め自發的に辭職し、他の五

臺灣總督官房外事課

名は依然政府に奉職することとなつてゐる。

かかることは單に政府の普通事務に過ぎなく、何等政治的意味を有するものではない。かかる報道が如何にして創作さるるものか、實に驚くべきものであるが、此の報道も曾て行はれた日本人のクラ運河開鑿に關する報道と一脈相通するものがあるやうに思はれる。

(九・九一〇〇)

二、排日華僑取締に因み阿片窟手入れ

九月十二日午前二時を期して盤谷市内の全阿片窟に大手入れが行はれ、約五千名が檢舉された。うち暹羅人が三十餘名、殘りは全部華僑である。

右の被檢舉者は阿片吸飲常習者のみでなく、從來阿片窟が排日不逞分子の會合所とされてゐる爲め、此等不逞分子一掃の爲め大手入れが行はれたものと言はれ、被檢舉者は大部分本國送

選となるものと見られてゐる。

(九・一―B T)

三、茶商襲撃計畫中の秘密結社員逮捕

日貨取引の廉で福建人茶商を襲撃計畫中の秘密結社員三名が逮捕された。右三名は日貨取引の名目で盤谷華僑を脅迫し續けて来た有名な秘密結社員である。尙、昨二十九日朝兇器携帯徘徊中の右結社の一員が檢舉された。

(八・三〇―B T)

臺灣總督官房外事課

タイプライター用紙

馬
來

一、獻納飛行艇の命名

デインデインス領ルムット港に於ては、十月一日ペラ州王は王立空軍シヨート・サンダーランド飛行艇第一號機に同州の名前を命名することとなつた。之も相次いでスランゴール・パハンの兩州王並にネグリスマピランのヤム・トアン殿下はポートスウエテナム・クワアンタン及ポート・デイクスンの諸港に於て同様擧式される筈である。

極東王立空軍第二百三十中隊所屬の四飛行艇は其の時を以てペラ・スランゴール、バハン及ネグリスマピランの州名を以て呼ばれることとならう。該飛行艇は先般馬來聯邦各州王及州民によつて英領馬來の空の護りとして新たに二箇中隊整備のため帝國政府に獻納された二百五十萬弗から買入れたものである。

臺灣總督官房外事課

ルムット港はサンダランド機の理想的着陸場を提供するであらう。同港は小港であるが半島中の天然の美港の一である。平常クアラカンサーに居住するペラ州王はルムット港沖合の島嶼ブラウ・ブランドクに邸宅を有つてゐる。(九・二一―B T)

二、マンチエスター聯隊來星

今般マドラス省ウエリントンへ向け離星の Royal Inniskilling Fusiliers 第一大隊と入れ替にマンチエスター聯隊第一大隊が來馬することに成つた。(八・二九―B T)

三、蘭領印度の石油將來

(アムステルダム、七月十八日)

和蘭政府は、西部爪哇に於て王立和蘭石油會社に對し石油探掘權を許可する法律案に關する覺書中に於て、政府の油田開發

は多数困難と冒険あるに鑑み好ましからずと記述してある。

右覺書には、個人企業に於ては經驗に乏しきこと、及特に世界の情勢に鑑み可なり立遅れるであらうと。

「アムステルダム」紙は蘭領印度の石油埋藏量は非常に落膽すべきであると記載し、之が失望性は王立和蘭會社が最近年次報告中に發表された石油生産國蘭領印度の將來に關する事項によつても明かである。

新たに有望なる石油鑛脈が発見せらるるに非ざれば、蘭領印度に於ける石油の地位は重大なる問題となるであらう。

巨額の資本が數ヶの大精油所に投資されて居り、若し近隣に新油田発見されなければ、前記精油所の生命を延長する見地の下に石油の生産のやむなきに到るであらう。

(七・三〇一五)

臺灣總督官房外事課